



moritomirai

# 山梨トヨペット Green Camp

## 森の探検&カードゲーム 楽しみながら森への理解深める

山梨日日新聞社と山梨トヨペットは10月、笛吹・県森林公園金川の森で、「山梨トヨペットGreen Camp(グリーンキャンプ) 森の探検ツアー」を開いた。グリーンキャンプは、全国のトヨペット店がトヨタ自動車と共同で1976年から続けている緑化活動「ふれあいグリーンキャンペーン」の一環で、山梨トヨペットの開催は5回目。今回は山梨日日新聞社などが進めるやまなしSDGsプロジェクト「moritomirai(モリトミライ)」と共同実施した。参加者は山梨日日新聞社が開発したオリジナルカードゲーム「moritomirai」を体験した後、金川の森公園内を散策。森がどのようにして生まれ変わり循環していくのかを学んだ。水素で走る燃料電池車(FCV)から電気を供給する実演もあった。

カードゲームと森の探検を楽しんだ参加者



参加者同士でも交流し、協力することの大切さを学んだ



カードを見て戦略を立てる参加者

ツアーは10月5日に実施した。参加者は午前9時半に県森林公園金川の森(笛吹)に集合。プログラムに先立ち、山梨トヨペットの高野泰斗取締役が「県土の約8割が森林で、県有林が日本で一番多いのは山梨県です。私たちの身近な森をカードゲームで、そして実際に森を見て体感して山梨の緑をより深く知ってもらいたいと企画しました。楽しんでほしい山梨に住んでいてよかったなと思ってもらえるような時間になれば幸いです」とあいさつした。

午前山梨日日新聞社が開発したオリジナルカードゲーム「moritomirai」を実施。参加者は一つの町に住んでいるという設定の下、それぞれが「木を切る人」「販売会社の社員」など10の役割のうちの一つを担当。「材木を販売する」「スマート林業を導入する」といった行動を示すカードを使い、どの行動をすれば森林にどのような影響が出るのかを考えたうえで使うカードを選択した。「森への愛情」など森林の現状を示す四つのメーターに配慮しながら、役割ごとに設定された資金の獲得など

「公園には7種類のドングリの木があります。芽が生えているドングリを探してみよう」。参加者は地面に目を向け、頭上のドングリの木の葉と同じ葉のある小さな芽を探した。見つけた木の芽の周辺を少し掘ってみると、ドングリの先端が割れ、芽が出ていることを確認できた。「日の光が入るところでは芽が育ちやすいです。ドングリの木から少し離れたところを観察すると見つけることができますよ」と解説した。

### 車からの給電を実演

グリーンキャンプの会場では、水素を燃料とする燃料電池車「クラウン セダン」や「ミライ」、電気自動車(EV)の「bZ4X」が展示された。山梨トヨペットの担当者が同社の環境への取り組みを説明したほか、二酸化炭素(CO2)排出量など環境に関するクイズを出題。クラウンから供給した電気で冷蔵庫を動かし、飲料を冷やす実演もあった。



燃料電池車から電気を供給する実演

### 「森への愛情」をツアーで育む ゲームで森づくりを疑似体験

松橋さんは「モリトミライのカードゲームで使われる仕事カードで、森への愛を深めていきたいと思います」と話していた。

参加した都留・禾生一小4年の下重奏心さんは「カードゲームは、森のメーターを動かすところが楽しかったです。森の探検ではドングリを拾ったり、サワガネを見たりすることもできました。また森に来たいと思いました」と話していた。



森を散策する参加者



公園を流れる沢でサワガネを見つけた



オリジナル弁当

ドングリから生えた木の芽